

050107中田市長、波紋を呼ぶ職員向け年始あいさつ

大貫のりお氏ホームページ <http://www.ohnuki.jp/>
大貫ジャーナル [http://www.ohnuki.jp/news/news.cgi?
cmd=dp&num=107&UserNum=&Pass=&AdminPass=&dp=](http://www.ohnuki.jp/news/news.cgi?cmd=dp&num=107&UserNum=&Pass=&AdminPass=&dp=)

波紋を呼ぶ職員向け年始あいさつ

ニュースNo : 107

NEW

まるで消費者ローン社長の社員向け檄



4日、市会賀詞交換会風景

面罵・強要・ブラフ、欠如する暖かさ

4日、午前9時から中田市長の「平成17年市長年始職員向けあいさつ」の庁内放送がありました。私は、細郷さん、高秀さん、そして中田市長三人の市長の年頭あいさつをこれまで聞いてきました。その中で一番ひどい、人間的な暖かさをまったく感じられな

い、独りよがりのものです。

中田市長は、まず最初に、職員に対し「「もっと良いやり方はないかと考え工夫してこなかった」「だから私は動いたのだ」と、職員を面罵しています。私はいい子、あんたたちはダメな子、だから自己改革しなさいというのでしょうか。

さらに、中田市長は自分の考えこそが正しいのだ、それに逆らうものは「自分たちが変わらない、変われない、変わりたくないという態度による屁理屈でしかない」と言い切り、市長の考え以外のやり方を認めない態度です。

そして、あらたに人事考課制度を根幹にすえた人事給与制度を取り入れ、市長の打ち出した「横浜リバイバルプラン」の実行のための「努力」が物差しとなり、踏み絵にすえるとしています。自分の物差ししか認めない、それに逆らうものは評価しないぞ というブラフです。

消費者ローンの社長が社員に対し、社員の業績が上がらないとして、恫喝し、面罵し時には罰として素手でトイレを掃除させたというニュースを目にしたことがあります。その場面を思い出してしまいました。

裸の王様



4日、市会賀詞交換会風景

この間、商工会議所や横浜市医師会などの賀詞交換会に出席しています。そこで市の幹部やOB、外郭団体のみなさんと話をするのですが、私は、4日の市長の職員向けの年始あいさつを話題にすることにしています。どういう反応を示すか興味があるからです。

「市長も折り返し点を過ぎたから、実績をアピールしたのでは」

とその立場を理解する人もいますが、ほとんどは異口同音に「困ったものだ」という内容の返事です。中には「あれは職員に対する恫喝だよ」というOBも。

「私は『馬耳東風』を決め込んでいますよ」という幹部もいました。その幹部に「市長は、自分が市の最高責任者だということを認識していないのではないのか」「あいさつで、『給食での異物混入、脳血管医療センターでの事故や対応は一体何なのか』と、職員だけの責任にしているけど、その責任者は自分ではないかとなぜ批判しないのか」「長が部下にだけ責任を押し付け、だから『民』でなければダメなんだなんていえないでしょう」と指摘すると、くだんの幹部は「馬耳東風、馬耳東風」を繰り返し、「じっと首を縮

めてやり過ごすだけ」とアルコールも手伝って『本音』。

また、別の幹部に「〇〇さん、ずいぶん地味なネクタイですね、中田市長みたいのはどうですか」と水を向けたら「中田市長とは反対に、せめてネクタイだけでも地味なのをつけるんですよ」

独りよがり

市長は、あいさつで「医療にせよ保育にせよ公民いずれもが担いうる公共サービスですが、現在の横浜市の事業展開ならば、効率性、サービス水準など、民間の担い手のほうが優れていることが明らかと判断したからです」と言い切りました。

精神医療や重度小児医療、難病などの赤字は覚悟でも市民の命を守るための政策的医療は、民間では大変な重荷です。これらの政策的医療や災害時の医療は公立病院の使命なのです。民間病院と公立病院とはそれぞれの役割があるのです。もちろん、無駄な経費や浪費を、なくしていく努力は民間であろうが公立だろうが同じなのです。政策的医療や災害時の医療を市長は無駄というのでしょうか。効率的ではないから、コストがかかりすぎるからダメというのでしょうか。

保育はどうでしょう。保育における効率性とはと市長に、改めて聞きたいと思います。

また、サービス水準は何を持って民間のほうが言いというのでしょうか。サービスのメニューですか、それとも保育の質ですか。これも、それぞれ良い点があるのではないのでしょうか。公は保育全体の水準の向上をしめすと同時に、民間は柔軟なニーズにあったサービスを開拓し実施し、相互に影響しあって発展するのでは。それを「民間の担い方が優れている」なぜ断言できるのですか。

05年度も4園民間委託するとしています。04年度に民間委託されたところでは、いまだに市と園と保護者の三者協議もできないところがあります。その園の関係者はとても困っていると思います。

また、「これら(民営化した事業)を決定する過程の議論も公開して進めて

きた」としてありますが、これは事実反します。保育園の民間委託は中田市長がトップダウンで決めたことは、誰が見てもどんなに弁解しても事実です。

民営化・民間委託をするために、市長が選んだ民営化論者を中心にした「審議会」「あり方検討会」などを設置して、市長の考えに即した「結論」「報告書」を出させ、市長がトップダウンで民営化・民間委託を実行するやり方は、すでにパターン化しています。パブリックコメントや市長の手紙で意見を聞いているとしても、アリバイ的でただ聞き置くだけです。

市民の求める、満足する行政の手法を「公」「民」の二者択一にすることが「変」なのです。それを「変」と思わないところが「独りよがり」なんです。

まだまだ言いたいことがありますけれどもこれくらいにします。
5日、商工会議所の賀詞交換会の帰り地下鉄で、ばったり旧知の市職員に乗り合わせました。私が言う前に「大貫さん、聞いた？市長の年頭あいさつ。職場ではみんな怒ってるよ。やる気さえなくなるヨ」というものでした。